

## 第8回 ふくしま新ステージ有識者懇談会議事録

- 1 日 時 令和2年8月26日（水） 午前10時30分～正午
- 2 会 場 福島市役所 4階 庁議室兼防災対策室
- 3 出席者 伊藤宏会長、岡野誠委員、木下真理子委員、齋藤美佐委員、西内みなみ委員、早川正也委員、三宅祐子副会長
- 4 欠席者 菅野孝志委員、菅野廣男委員、高橋満彦委員、高橋理里子委員、高谷理恵子委員、渡邊博美委員

### 5 内 容

○第8回懇談会（司会：政策調整課長）

#### （1）開会

#### （2）会長あいさつ

#### （3）議事（議長：伊藤会長）

議 長 事務局より「（1）『重点施策（案）』及び『個別施策（案）』について」の説明をお願いします。

事 務 局 資料により説明。（【資料1】第6次福島市総合計画まちづくり基本ビジョン体系図（素案の案）（案）、【資料2】重点施策（素案の案）（案）、【資料3】個別施策（素案の案）（案）、【資料4】個別施策シート）

議 長 【資料1】将来構想、基本方針は前年度にまとめたものである。前回は重点施策を中心に議論し、その意見を踏まえて今回修正をしていただいた。個別施策については参考とした上で、本日も重点施策を中心に議論していく。

委 員 方針や施策が実際に施行されて実を結ぶために必要なのは、そこに介在している人である。人の育成が一番大切である。一番問題になっている少子化をなんとかしないといけない。日本は毎年50万人が自然減で、一つの都市がどんどんなくなっているような現実がある。まずは自然減対策として、重点施策「（1）えがおあふれる子ども・子育ての新ステージの実現」を一番にやってもらいたい。小児科医の話によると、子育てにおける一番の問題は子どもよりも親である。親が子

育てをきちんとしないと、子どもがまっとうな大人になれないという危機感を抱いている。スマートフォンを子どもに預けて遊ばせる光景を目にすることがあるが、自分の欲を優先して子どもを放置するというネグレクトは虐待に値する。そういう経験をした子どもは将来どういう人間になるかは目に見えている。子育て支援は生まれてからすぐにやらなければならない。福島市でも安心して子育てができるような環境を作ってほしい。保健師・保育士のなり手がいない理由の一番は給料である。理想に燃えて就職しても、現実が低い月給では、結婚も自分たちの子どもを作ることもしないかもしれないという現実と直面し、リタイアする人が増えてくる。こういった点を支援する施策を考えていただきたい。

議長 【資料1】基本方針は1～6まであり、プライオリティを明確にしているわけではないが、気持ちとしては上の方が重要ということで、例えば基本方針「6効率的で質の高い行財政経営」は行政サイドの問題であるので1番下にある。1番目に子どもの問題が書かれているということはプライオリティが1番高いという認識であるということだと考える。

委員 【資料1】重点施策「(1) えがおあふれる子ども・子育ての新ステージの実現」に紐づく個別施策として、「④男女共同参画・人権尊重の推進」や「⑭多文化共生の推進」が出ていないといけない。人口減の背景にあるのは、まさに男女共同参画の問題である。重点施策「(1) えがおあふれる子ども・子育ての新ステージの実現」は、子どものみの問題ではなくて大人の問題もあるという自覚をもち、その対策を市が明確に打ち出した方がよい。

また、重点施策「(1) えがおあふれる子ども・子育ての新ステージの実現」には「⑬生涯学習の振興」も紐づいている方がよい。既に文部科学省でも「あらゆる教育課程において生涯学び続ける力を身につけさせることが学校教育で重要」とされているし、生涯学習は高齢者のための地域サービスではなく、すべての人々にとって生涯学び続ける質を保證する取り組みの一つである。子どもたちの笑顔を作るためには、生涯学習が重要だという観点も必要である。

議長 個別施策は複数回出てきても再掲しても問題ないと考えるので、今の意見を踏まえて、生涯学習を重点施策に紐づく個別施策として加えることを検討いただきたい。

事務局 個別施策の中には重点施策に紐づく施策もあれば、基本方針から重点施策を介さず個別施策に直接紐づく施策もある。すべての施策は将来構想につながるものだが、強弱をつけるため、重点施策、重点施策に紐づく個別施策、重点施策に紐

づかないものの基本方針には紐づく個別施策、として割り振った。意見を踏まえて組み替えることを検討する。

議長 小学校から高校までは福島でいい教育をほどこしたとしても、大学は首都圏に行ってしまうとか、大学まで福島にいたとしても、就職は首都圏に行ってしまうというように、せっかく福島で一生懸命育てても優秀な人材が結局県外に流れてしまう問題がある。そういう点もふまえて、子育て世代のための施策、子どものための施策も大切だが、将来的に福島に循環する、福島に資する人材になってもらえるような工夫や視点も必要である。

委員 少子高齢化や人口減少もままならない状態だと分かるが、教育問題が一番大事である。親の教育や生涯学習も含めて、すべての教育がとても大事である。重点施策「(1) えがおあふれる子ども・子育ての新ステージの実現」というと、どうしても小さい子どものイメージが強く感じられる。小さい子どもだけでなく、小・中学生や青少年の教育・学びについても明確に打ち出せるとよい。

せっかく福島で学んだ子どもたちが外へ出て行ってしまう。これは以前から問題になっていたことである。市内には大学がたくさんあるので、大学生のうちから地域と交流を持つなど、なんとか福島に残ってもらう方法がないか模索しているが、なかなか大きいことはできていない現状である。

委員 人口減少の問題を抱える中で、首都圏や他県に出た人がある時期に福島に帰ろうと思う時期を捉えて、Uターン者に対しての優遇措置を整備などして、Uターン者を積極的に受け入れ、特に若い世代に帰ってきてもらい、家族を作ってもらおう。家族を作った時に実家の近くに帰ってくれば、祖父母からの支援も得られるなどのメリットが伝わると良い。男女共同参画の視点をもちながら子育て支援をするということの一例になるのではないか。

また、福島といったら農業である。【資料2】「(2) 復興・創生のための放射線対策・風評払拭などの充実」で初めて農業の視点が出てくる。もっと農業を全面に出した重点施策があるとよい。

「(6) 脱炭素社会の実現と循環型社会の形成」について、ドイツやヨーロッパのコンパクトシティが成功したのは、二酸化炭素の排出を削減するために、まちを囲って車の台数を減らし、そのために公共交通機関を充実させ、街なか歩いて来られる環境を整えたからである。脱炭素の視点からまちづくりにつながっていくような重点施策になるとよい。

「(10) 市民との共創による新しいまちづくりの実現」については、今まで「市民との協働」という言葉でやってきたが、これまでの協働の評価や「共創」とい

う言葉に切り替わった理由が分からない。「共創」について理解を深められるような説明があるとよい。

議 長 若者の地元就職率を高めるために文部科学省の事業を 5 年間やったが、結局市内 5 大学の平均は 5 年前と比べると下がってしまった。若者を無理やり福島にひきとめておくことはできないので、何かあった時に帰ってくる、それを温かく迎えるための雇用や子育て環境があるとよい。

福島大学農学群食農学類もできたので、うまく連携して活用していけるとよい。

委 員 これまでの議論の中で、重点施策 1 つに関して様々な角度から施策を講じるべきだという意見が指摘された。子育ては子育てだけでなく、産業の振興・育成、雇用の受け皿の整備等も関連する。ほかの重点施策も同様である。重点施策に紐づく個別施策を落とし込む段階で、今のままだと子どものことは子ども関係の部局の仕事となってしまう。複数の個別施策を再掲することもできるのであれば、関係するものを一度全部集めてみてはどうか。そうすれば、今後新たな施策を講じる時に他部局を巻き込みやすい。こういった点を今後作成する資料に取り入れていくと、一般市民が読んでもわかる。

議 長 【資料 2】「(3) 自然災害に負けない危機管理体制の強化」の中の「②地域防災力の強化」について、災害は起こってしまうものなので、防災だけではなく、減災もやっていかないと、起こった時にマイナスをいかに少なくするかが重要である。強固な堤防を作ればよいのではなく、堤防が決壊した時の対応などの減災の観点を入れていただきたい。

【資料 2】「(7)『人』と『活力』であふれる産業のグレードアップ」の中に「②新たな工業団地の造成と企業立地の促進」があるが、工業団地はなかなか難しい。工業団地を作りすぎて市の財政が傾いてしまったところもある。工業団地を造成すれば企業が来てくれるかというところというわけではない。工業団地の造成という言葉を出すのがいかなものか。再検討してほしい。

【資料 2】「(1 1) 世界への挑戦・発信による都市ブランド力の向上」の中に「①福島イノベーション・コースト構想と連携した新たな研究開発や産業集積等」があり、現段階ではそれほど大きな成果が得られていないが、市としてイノベーション・コースト構想にどの程度関わる考えなのか。

事務局 工業団地は市内に数か所あるが、実際に企業に提供できるところがほとんどない。大笹生インターチェンジ周辺に整備した工業団地には順調に企業が入ってきているため、今後さらに拡大することが必要な状況となってきている。

イノベーション・コースト構想については、相馬―福島間の東北中央自動車道の開通により 1 時間で移動できるという面も活用し、イノベーション・コースト構想に関連する産業を市内に育てていこうと考えている。

委員 重点施策「(12) ICT を活用した先進的市民サービスの充実」とあるが、ポストコロナ、ウィズコロナを想定した場合、ICT は非常に伸びしろがある分野である。市としてはどこまで考えているのか。

事務局 9月議会に補正予算を計上しているものとして、住民票交付などの手数料の窓口キャッシュレス化をまず始める。また、市役所 1 階のみに Wi-Fi 環境があったが、Web 会議等に対応できるよう全フロアに Wi-Fi 環境を整える。さらに、【資料 2】にも記載のある通り、「①スマート窓口化」や「②新しい生活様式に対応した ICT の活用」を積極的に進めていく考えである。

委員 【資料 2】「(4) 安心して暮らせる福祉と医療体制の充実・強化」の部分で、ふくしま新ステージ有識者懇談会からの主な意見の中に「○高齢者、障がい者、外国人への支援が必要。」「○超高齢化社会を見据えた、互いに支え合う地域づくりの推進が必要。」とあるが、これはもったもな事。福島市は高齢化率が 30%に届こうとしている。さらに問題なのが、高齢者 2 人世帯、高齢者 1 人世帯が 12%あるということである。隣近所でお互いに支え合うとなると、支え合いにならず共倒れになってしまう。市内に 22 か所ある地域包括支援センターに設置が義務付けられている生活支援員を増やしていくべき。

委員 【資料 4】個別施策シート「⑩市民共創・地域連携の推進」に記載のある産官学連携プラットフォームについて、「⑬生涯学習の振興」にも記載してほしい。生涯学習が一番成果を出しており、コロナ騒ぎがなければ、福島市の活性化のためのもっと大きな起爆剤となっていた。

大学時の県外流出は仕方がないが、帰ってきたくある時がある。そのタイミングがいつかという、30 歳と 50 歳である。人生のライフステージの中のターニングポイントでもう一度故郷に戻ってきて、子育てをしたり、親の姿を見ることで自分が高齢になった時にどこに住んでいたいかを気づかせたりする取組みが、個別施策の中であればよい。子どもを 2 人産める地域は魅力的。生涯のライフステージにつながった子育て支援が個別施策に盛り込まれるとよい。

事務局 【資料 2】「(9) 移住・定住に向けた支援・受入体制の強化」の中で「①ライフステージに応じた結婚支援（結婚への支援・結婚してからの支援）」を今回新たに

盛り込んだ。また、「②若年者定着・定住支援」も「(9) 移住・定住に向けた支援・受入体制の強化」に盛り込んだところである。

委員 「①ライフステージに応じた結婚支援（結婚への支援・結婚してからの支援）」は、「(1) えがおあふれる子ども・子育ての新ステージの実現」にも入れないといけない。両方に記載した方がわかりやすい。総合的にこういう施策があると見えた方がよい。

委員 明文化することは大事だが、明文化してしまうと部局によってミッションが限定されてしまうので、それがマトリックスで見えるとよい。

これから地球温暖化で水害がいつ起きるか分からない恐怖もあるし、災害はどうしても起きてしまう。そのときに減災という話があったが、【資料2】重点施策「(3) 自然災害に負けない危機管理体制の強化」と個別施策「⑦消防・救急体制の充実」はとても重要である。既存の消防団の後継者問題も依然としてあるので、行政サイドも重点的に力を入れて、消防団の活性化や継続に寄せた形の表現があるとよい。

岐阜県の事例で各町内会に手あげ方式で、防災士1人を置き、受講料は市で支援するというものがある。防災訓練の時は、町内会長ではなく防災士が中心になって炊き出しや避難訓練を行い、それによって町内会が復活した。

委員 子育てや移住も、コミュニティを再生していかないとうまく回っていかない。これはどの重点施策にも関わってくることである。

議長 歴史・文化・祭りは、コミュニティがあるから成り立っていて、それを経験した子どもたちが将来的に戻ってくるのであり、そういうものが何もなくて、福島に愛着もなくて戻ってこようという気にはなかなかならない。

委員 中心地に消防団は存在し、機能しているのか？

事務局 各地区にあり、機能している。問題は、若い世代がなかなか消防団に入ってくれないことである。若い人に見てもらえるようPR映像を作るなど、消防団への勧誘を積極的に行っている。また、女性にも積極的に入ってもらい取り組みや学生消防団など、様々手は尽くしているところである。災害に対してはまず動くのが消防団なので、これがないと減災につながらない。非常に重要な部分であるので、力を入れていかなければならないと認識している。

議 長 次に、事務局より「(2) 今後のスケジュールについて」の説明をお願いします。

事 務 局 資料により説明。【パワポ】 ふくしま新ステージ有識者懇談会【第8回】

議 長 次回は最後の有識者懇談会となるので、9月下旬～10月上旬でなるべく多くの委員に参加していただきたい。委員の皆様からのご意見があれば、9月9日までメールで事務局へ送付願う。

#### (4) その他

○第9回有識者懇談会について説明

・9月下旬～10月下旬を予定

○意見の提出について説明

・締切 令和2年9月9日(水)

#### (5) 閉 会